

## 「人を裁くな」

2015年06月08日

ルカによる福音書 6章37節～42節。「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。あなたがたは自分の量る秤で量り返されるからである。」イエスはまた、たとえを話された。「盲人が盲人の道案内をすることができようか。二人とも穴に落ち込みはしないか。弟子は師にまさるものではない。しかし、だれでも、十分に修行を積めば、その師のようになれる。あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって、『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。」

人を裁き、あの人は「ダメな人だ」と決めつける時、自分が偉い者であるかのように思ってしまう。あの人ほど愚かでないで、自分を高みに置くからである。しかし、それは錯覚である。人を非難し、高みに立ったつもりでいても、決して偉くなった訳ではない。むしろ、人を裁きたい時は、自分の精神状態がよくないと知るべきである。主イエスは、人を裁くな、ダメ人間だと決めつけるな、そうすれば、あなたも非難されることがない、赦しなさいと言われる。赦しは受け入れることである。互いに赦し受け入れ、与え合う時、溢れるほどの豊かさに与ることができる。自分の量る秤で量り返されるのである。

そして、二つの譬えを語っている。「盲人が盲人の道案内をすることができようか。二人とも穴に落ち込みはしないか。弟子は師にまさるものではない。しかし、だれでも、十分に修行を積めば、その師のようになれる。」この譬えは、身体的障がい者を例に引いて、障がいのゆえに役に立たないという言い方は不適切であると思う。確かに、道路を歩く時、盲人は道案内をすることはできない。しかし、盲人は鋭敏な感覚、感性がある。前任の教会に、4人の盲人と2人の弱視の方がおられた。その人々に計り知れないほど多くのことを学んだ。今でも、あの人ならこのことをどう思うだろうかと心に問いかけている。また「弟子は師にまさるものではない」と言われるが、師らしく装うが、どうしようもない師もいる。しっかり修行して、道案内できる師になることは首肯できる。

もう一つの譬えは、自分の目の中の丸太に気づかず、他人の目にあるおが屑を見て、「あなたの目にあるおが屑を取らせてください」という皮肉な譬えである。主イエスは「偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる」と言われる。この譬えは「人を裁くな」に結びついたものである。目の中にあるおが屑と丸太の対比は面白い。おが屑は目に入るが、目に丸太が入ることはありえない。主イエスは、自分のことは棚に上げ、民衆を高慢に裁く律法学者たちの偽善を厳しく指摘したのである。

人のことは見えているつもりになって、自分のことが見えにくいことが多いのではないか。主イエスは十字架の上で「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」と祈られた。自分が何をしているのか分からないのが事実であるから、人を裁かず、赦し受け入れ合う。そこに、共に生きる喜びがある。